【高等学校用】

令和４年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立白石高等学校

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

1　前年度 評価結果の概要	・「学力の向上」について、本年度は普通科３年生が国公立大学に１８名の合格者を出し、商業科３年生も進路達成１００％であった。次年度は両キャンパスともに基礎・基本の定着を図りながら一層の進路実現を目指すとともに、キャリア教育の推進により自ら意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。 ・コロナ禍で各種行事が計画通りに実施できなかった面もあるが、両キャンパスが連携してできる範囲で合同会議や合同行事を開催し、職員や生徒の「１つの学校」という意識が高まった。 ・３年間の「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」で培ったノウハウを活かし、次年度はＳＡＧＡコラボレーションスクールの重点校として、地域協働のさらなる展開とキャンパス制の特徴を活かした小中連携を展開する。
2　学校教育目標	1．生徒が主体的に未来を切り開く力を育成する学校 2．知・徳・体の調和がとれ、社会の一員として責任を果たすことができる人材を育成する学校 3．地域に愛され、信頼され、地域貢献のできる生徒を育成する学校 4．お互いを認め合い、多様性の社会をよりよく生きていく力を育成する学校
3　本年度の重点目標	・一体感を醸成する校務分掌の連携の推進 ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の推進 ・総合的な探究の時間を通したキャリア教育の充実 ・「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」の成果を踏まえた、SAGAコラボレーションスクールの展開

4　重点取組内容・成果指標　／　5　最終評価

(1)共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○生徒の進路希望に応じたきめ細やかな進路指導によりキャリア発達を促し、進路実現を達成させる	○キャリア教育アンケートにおいて、「進路について考えることができた」、「ある程度できた」と回答した生徒の割合97％以上	・各種進路行事を通して，自らの進路に関して考える機会を提供し，生徒自身のキャリア形成に対する理解を深める。 ・活動記録や学期ごとのキャリアパスポート記入を通して，自分の取り組みを振り返る機会を準備し，さらなる活動の進展へつなげる。 ・探究への取り組みを通して，地域との関わりや職業について体験をさせることで主体的に活動し学ぶ態度を育成する。	A	・キャリア教育アンケートにおける質問「学校での１年間の学習や行事を通して、将来の自分の進路（職業）について考えることができましたか？」における、①できた（64.4％）、②ある程度できた（32.6％）の割合が97.0％に達した。	A	・現在の生徒たちに求められていることは以前と比べると難しいことが多いと感じています。大変だと思いますが、生徒たちのこれからに役立つ力を身につけられるようお願いします。	進路指導部 各学年
	○主体的に考え行動する力を育成するため、また、学力向上のための授業改善に取り組む	○授業について、「満足している」と回答した生徒の割合90％以上	・ICT機器の効果的な活用方法等、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりについて、各教科で研修を行う。	B	・各教科研修は、11月の教育・文化週間に合わせて授業参観週間を2週間設け、教科内外を問わずにキャンパス間での研修を実施した。授業の構成、使用教材の工夫、ICTの利活用方法、伝え方等を参考にし、自己の授業改善に活かせた。 ・アンケートの授業満足度で肯定的な回答は89.3％であった。 ・コロナ禍の影響によるオンライン授業もスムーズに実施できた。	B	・生徒学力の向上が見える指標が欲しいと思います。	教育企画部 各教科
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○人権感覚を身に着けるための啓発活動や研修等へ参加したと回答した職員・生徒を95％以上にする。	・人権・同和教育講演会及びホームルーム活動をそれぞれ1回以上実施する。 ・授業や集会等で情報モラルに関する指導を1回以上実施する。	B	・「学校は、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや豊かな心を身に付ける教育活動を行っている。」と思う保護者はそう思うとややそう思うを合わせて83．4％であった。また、人権・同和教育に関する講演会に参加したという生徒は87．3％であった。 ・人権・同和教育に関する講演会に参加、または人権・同和教育に関するホームルーム活動を実施したと答えた職員は76％であった。	B	・他の視点での指標もぜひお願いします。	教務部
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ対策（未然防止・早期発見・即時対応）について組織的対応ができていると回答した教員80％以上	・いじめアンケートを年3回実施し、実態調査を行う。 ・いじめ対策に関する職員研修を年に1回以上実施する。 ・週に1回、学年・生徒指導・教育相談担当等が情報共有を行い、連携を図る。 ・生徒会いじめゼロ啓発活動を行う。	A	・全職員が、いじめ対策には組織的対応が必要であると認識できた。学校が相談しやすい存在となるよう、生徒との信頼関係の構築に一層努め、各職員が教育相談のスキルアップを図り、安心できる居場所や相談しやすい環境を整えることが必要である。	A	・いじめは受けた生徒の感じ方によるので、指標が生徒ベースがいいのではないか。「学校は予防や対応をしてくれていると思う生徒」など。	生徒支援部 （生徒指導・教育相談）
	◎郷土愛を醸成するための教育活動	○佐賀県や地域について学ぶ活動や講演会を実施し、佐賀県や地域に誇りや愛着を持っている生徒を90％以上にする。	・「さがを誇りに思う教育講演会」や探究活動を通して地域の方々や企業等の代表者から話を聞き、佐賀県や地域の魅力を深める。	B	・アンケートで「私は、佐賀や地域について愛着をもっている。」と肯定的に回答した生徒が、7月は78.8％で、12月は82.1％であった。年間を通して、増加したが90％には満たなかった。 ・アンケートで「学校は、地域連携事業に積極的に取り組んでいると思う。」に肯定的に回答した生徒は77％であった。	B	・高校生が学外に出るだけでなく、難しいとは思いますが、学校内に地域の方を呼ぶことで地域との繋がりを強めてもいいかと思います。	教務部（佐賀誇り）
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康でいるために食事は大切である」と考える生徒を90％以上にする ○朝食を必ず摂って登校する生徒を85％以上にする	・毎月、食育だよりと保健だよりを発行し、望ましい食習慣と健康との関わり、栄養と食品等について、情報発信を行う。 ・年に2回（5月と11月）に食生活アンケートによる意識調査を行う。	A	・11月の食生活アンケートでは、「健康でいるために食事は大切である」と考える生徒は全体の99.3％であり、ほとんどの生徒が食生活の大切さを理解している。基本的に「毎日（土日も含む）3回の食事を摂っている」生徒は全体の97.0％であった。	A	・食事は健康の基本です。引き続きご指導お願いします。	生徒支援部（保健指導）
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○防災について、高い意識を持っていると回答した生徒90％以上	・風水害時の保護者の迎えの手順を文書で作成し周知する。 ・防災避難訓練を消防署立ち合いのもと実施する。	B	・12月のアンケートで、防災について意識を持っているとした生徒は、77％であった。実際に、地震発生時及び火災発生時の避難訓練を行い、消防署職員による講話も行った。しかし、やはり訓練だからなのだろうか、現実で起こりうる事象としての意識を高めるまでには至らなかった。	B	・災害が現実に起こりうる事象としての意識を高めることは難しいと思うが、達成度は別として続けていく取り組みであると思う。	生徒支援部（生徒指導） 教育企画（防災担当）
	○心身ともに健康で、文武両道の充実した生活環境をつくる	○本校の「部活動の活動方針」に基づき活動ができたと回答した教員85％以上 ○心身の健康維持・促進に積極的に取り組んでいると回答した生徒を85％以上	・放課後の時間の有効活用について、HR等で理解を図る。 ・各学年の部活内における立場を自覚させ、学校の活性化につなげる。	B	・体育授業や体育的行事に対して、生徒は非常に積極的に取り組んでいると、職員・生徒ともに感じているし実際に積極的な動きが見られた。 ・部活動については、各顧問が綿密な計画をもとに生徒に対し短時間ながらも効果的な活動ができるように引き続き指導していく。	B	・生徒のより充実した学校生活のために、引き続きよろしくお願いします。	生徒支援部（生徒会）
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●時間外在校時間の上限を遵守する。	・事務ポータルシステムの活用と会議の削減を行う。 ・出退勤システムの活用で、個人が時間外在校時間を管理する。 ・定時退勤推進日を設定し、効率的な業務遂行を推進する。	B	・定例の会議の削減と両キャンパス合同で開催する会議をオンラインで実施することで、効率的な校務運営につながり、時間外勤務の削減効果があった。 ・全体的には時間外勤務時間の削減が図れたが、一部の時間外の上限を超えた職員について産業医面談を実施しており、出退勤システムでの自己管理のみでの削減には限界が感じられる。そのため職員の勤務時間に関する意識のさらなる向上に務める必要がある。	B	・両キャンパス制で5年目が終わり、以前と比べると動きやすくなっていると思う。できればキャンパスが一つになることが生徒・職員も思っていることだと思う。	管理職
	○職場の相談体制を整え、働きやすい職場環境を構築する	○働きやすい職場環境であると回答した教員の割合90％以上を目指す。	・ゼロの日の服務規律指導時に、ハラスメント防止を徹底する。 ・校内のハラスメント相談体制を整え、相談に迅速に対応する。また、第三者相談機関を職員に周知する。 ・職員研修を年間2回以上実施する。	B	・ゼロの日の服務規律指導は着実に実施できた。 ・働きやすい職場環境については、アンケートの結果76．0％の職員が当てはまると回答したものの、目標の90％に到達しておらず、取り組みの継続が必要である。 ・ハラスメント研修をはじめ、職員研修は確実に実施できた。	B	・職員の方々の働きやすい環境を目指して、細やかな配慮をお願いします。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
★SAGAコラボレーション・スクールとしての取り組み	○地域協働の更なる展開 ○キャンパス制の特徴を活かした小中高連携の展開	○学校運営協議会を設置し、年3回以上会議を開催する。 ○小中高連携の企画を拡大する。	・コーディネーターを採用し、受け入れの体制を整える。 ・「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」での取り組みを継続しながら、3年間を見通した計画を作成する。	A	・学校運営協議会を設置し年6回開催し、次年度の方向性について話し合うことができ、校内も委員会を立ち上げ、次年度の計画をたてることができた。また、コーディネーターを採用し、学校情報発信を担ってもらえる環境が整った。 ・小中高連携では、コロナでできていなかった競技や新しい競技の教室を開催することができた。	A	・もう少し外に出る活動が必要だったのではないだろうか。そのためにも年間計画の員直しも必要である。 ・来年度こそ、プログラミング教室をぜひ大町町でやっていただきたい。 ・地域との協働作業は、1年を通じて生み出していただきました。スポーツの拠点としての小中高連携も可能性を感じる取り組みだと思います。	SAGAコラボレーション担当
○校舎制による円滑な学校運営の推進	○キャンパス間の連携・協力体制をより充実させる	○オンラインを活用しながら合同で行う会議・研修・行事を昨年度より増やすとともに、合同での開催方法の質を上げる。	・特別活動で合同開催が可能なものはすべて合同で行う。 ・会議資料の整理を行うことにより、合同で行う会議・委員会の効率化と分掌業務の一体化を図る。	A	・特別活動で合同が可能なものは合同で行うことができた。職員会議の資料も整い、効率よく会議ができ、お互いの様子も把握できるようになった。 ・キャンパスをまたがって、同じ学年団・分掌・教科として取り組めるようになった部分が増えているようである ・校務分掌業務の整理にも取り組んでいる。	A	・キャンパス制の学校としての運営は整ったということを理解したが、1つのキャンパスと比べると難しい部分は以前あると思う。	管理職 主幹

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育　★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

5　総合評価・ 次年度への展望	・全体的に目標はおおむね達成できたといえる。校舎制による組織内の連携も可能な部分は完了したと考えられる。 ・次年度に向けては、「主体的な態度を育て地域社会に貢献できる人材を育成する」という学校目標を達成するために、SAGAコラボレーションを軸とし地域連携の拡大を図り、学校の魅力を強化する。